

みなさんは「手ぬぐい」をお持ちですか？
家事や仕事でフル活用している方もいれば、飾ったり、集めたりしている方もいて使い方はいろいろ。古くから日本人の暮らしに根付いてきた「手ぬぐい」。デザインの種類も増え、楽しみ方の幅もぐんと広がりました。今回は、江戸時代から続く手仕事、技術を守りながら、現代の暮らしにマッチした新しい手ぬぐいの魅力を次々と提案する「越後亀紺屋藤岡染工場」をご紹介します。

使えば使うほど、
手に馴染み、愛着が湧く
新潟を映す染め模様



越後亀紺屋
藤岡染工場
【新潟県阿賀野市】



「家業を継ぐ」と思っていま
せんでしたが、大学生の時に見
た中吊り広告が気持ちを变え
ました」と話すのは、越後亀紺
屋藤岡染工場・事務の藤岡利
明さん。その広告は大手ビール
メーカーのキャンペーン広告で、
オリジナルデザインの手ぬぐい
をプレゼントという企画でした。
「当時、うちでは社名を染めた
手ぬぐいが主流でしたからデザ
イン性の高い手ぬぐいはとても
目新しかった。手ぬぐいの魅力
が見直されるかもしれないと可
能性を感じました」。

越後亀紺屋藤岡染工場は、
今から約270年前の寛延元年
(1748)、糸染め屋として
創業しました。その後、時代の
変化とともに半纏や法被、のれ
ん、商店や企業の販促品である
手ぬぐいなどを製作。高い技術
と時代にあつた企画力を発揮し
てきました。

工房に隣接するショップを覗
いてみると、かわいらしい絵柄や
美しい色合いの手ぬぐい、小物
が所狭しと並んでいます。中で
も目を引いたのは錦鯉やトギ、
チューリップ、鮭、ラーメン、ヒス
イなど新潟ゆかりの絵柄の手

ぬぐいです。

今までで99柄を製作してい
ますが、12年前から長岡造形大
学の学生さんと共同製作して
います。製作を通じて「新潟に
はこんな自然や文化がある」と
地域の魅力を再認識してもら
えたらと新潟をテーマにデザ
インしてもらい、今では40柄が定
番商品になっています。

もうひとつ「地元」にこだわ
った商品があります。地元の紡績
メーカーとコラボレーションした
「TeWeL」はふぎんの生地
を染めているので吸水性抜群。
タオルと手ぬぐいの良いところ
を取った画期的な商品として

今、注目を集めています。「商品
づくりで心がけているのは代々
受け継いできた技術を使うこ
とと、今の暮らしにフィットする
ものづくりをすること。新潟ら
しさも大切にしていきたいです
ね」と藤岡さん。越後亀紺屋藤
岡染工場では先輩が培った伝統
の技法に若い感性やアイデアが
加わり、独自のものづくりを実
現。これからも使う人が心地よ
くワクワクするような「いいモノ」
が次々と誕生していくこと
でしょう。

- ①手ぬぐいで作ったご祝儀袋。お祝い事の思い出と一緒にずっと使えるのは嬉しいですね。
- ②酒瓶を手ぬぐいでラッピング。この手ぬぐいは米俵とネズミの絵柄なんです。子年の来年にぴったり!
- ③シンプルな絵柄の「TeWeL」は男女問わず使いやすい商品。右側はハンカチのように使える小さめの「Daily TeWeL」。
- ④越後亀紺屋藤岡染工場の屋号もステキなデザインですね。
- ⑤⑥小銭入れやトートバック、ブックカバーなど手ぬぐいで作った小物もたくさんあります。
- ⑦取材の日は、夏祭りに使う法被を染める前の糊付けをしていました。
- ⑧⑨布に型紙をあて、糊を付けていきます。糊がある場所は白く染め抜かれるそうです。
- ⑩糊の上に砂をまいて、水分の乾燥を促します。
- ⑪⑫長岡造形大学の学生がデザインした「新潟手ぬぐい」。右は新潟県小千谷市発祥の「錦鯉」、左は県の花「雪割草」です。
- ⑬商店街に面したショップには、選ぶのに目移りしてしまうほど色とりどりの商品が並んでいます。
- ⑭「今でも昔ながらの注染(ちゅうせん)」という技法で染めているのですが、年々この技法ができる染物屋が減り、日本海側ではうちだけに
なりました」と話す藤岡利明さん。



14



13



12



11



越後亀紺屋藤岡染工場
新潟県阿賀野市中央町2-11-6
TEL.0250-62-2175
http://kamekonya.com